



1 | 国内最大級霧の庭園演出「東京雲海」。客室から眺める、庭園の3/4を覆う「大雲海」の景色は圧巻
2 | 2025年、東広島から自白の地に移築されてから100年を迎えた登録有形文化財(建造物)の三重塔
「圓通閣」 3 | 庭園内の独立型神殿「杜乃宮」。本格的な神前挙式を行うことができる

FILE
04

歴史と伝統を踏まえて新たな挑戦 ホテル椿山荘東京のブランド再生

唯一無二のラグジュアリーホテルへ

山縣有朋公により1878(明治11)年に築かれた庭園を有する「椿山荘」は、1952(昭和27)年のガーデンレストランの開業から始まり、婚礼・宴会事業のビジネスモデルを構築していった。2013(平成25)年には「椿山荘」と1992(平成4)年に開業した「フォーシンズホテル椿山荘 東京」との運営を一体化し、「ホテル椿山荘東京」としてリブランドオープン。60年以上にわたり築いてきた「椿山荘」の婚礼・宴会事業のノウハウは維持しながら、日本の伝統的な“和”を感じることができる唯一無二のホテルとしてのリブランドである。ホテルブランドを確立し、海外における認知度を高めるため、2017(平成29)年に「プリファード ホテルズ & リゾーツ」に加盟。客室の改装や宴会場の改修を進め国際会議や企業会議開催の獲得に注力していった。

また、同年2017(平成29)年に美しい庭園を望みながら神前式を挙げることができ、100名まで列席できる都内ホテル最大級の独立型神殿「杜乃宮(もりのみや)」を建設。自然豊かな庭園を前に、雅楽三管の生演奏や巫女の舞といった格調高い挙式がかなうこの神殿は、神社での本格的な挙式を望む新郎新婦に支持された。また、2021(令和3)年には、都心でながら大自然を感じができる環境をアピールした新コンセプト「TOKYO RESORT WEDDING～東京には、ひとを祝福する森がある。」を打ち出した。これも、庭園という当社の強みを生かした差別化戦略だった。

そのほか、「ホテル椿山荘東京」ブランドを核に、国内外でのレストラン出店を積極的に展開、海外では2016(平成28)年1月に、「ホテル椿山荘東京」プロデュースによる日本料理レストラン「錦水 TAIPEI by HOTEL CHINZANSO TOKYO(2017年営業終了)」、同年12月に「割烹日本料理 光琳(2019年営業終了)」を台湾・台北に開業した。

守りながら進化、そして次代へつなげる 3年をかけた“庭園プロジェクト”

2022(令和4)年の「ホテル椿山荘東京」開業70周年に向けて、2020(令和2)年から3カ年にわたる壮大な“庭園プロジェクト”を立案・決行する。初年の10月には、庭園に霧が立ち込め、幻想的な非日常の世界にいざなわれる「東京雲海」をスタートした。コロナ禍においても将来につながる投資は止めることなく推し進められ、東京が「Go To トラベルキャンペーン」の対象となったタイミングとも重なり、多くのメディアで紹介されるなど話題になった。その後、庭園の季節を「椿」「桜」「新緑」「蛍」「涼夏・深緑」「秋」「冬」と7つに分け、季節の演出を完成させた。まさに当ホテルでしか体験することができない「東京雲海」と「7つの季節」を披露するとともに、7つの季節に合わせたレストランメニューなど商品造成を行った。それぞれの季節の魅力を取り入れた商品展開はお客様に何度も足を運んでいただくきっかけとなるとともに、客室から見える東京雲海の絶景は客室単価の向上にもつながった。

翌年には、築庭145周年を機に山縣有朋公が愛した水景を復活させるべく、庭園のみどころ「令和新十二景」の整備を進めた。歴史的財産である庭園を守ること、そしてそれぞれの季節の絶景による非日常感を創出することで庭園の可能性を未来へとつなげていく。

TOPIC | 08

国内外のデザインアワードで受賞した「東京雲海と7つの季節」

ホテル椿山荘東京の庭園演出「東京雲海と7つの季節」は「日本空間デザイン賞 銀賞」、「Prix Villeggiature Awards グランプリ」、「iF DESIGN AWARD」を受賞。また「日本夜景遺産」に登録され、高い評価を得ている。さらに、2025(令和7)年10月には「日本庭園の価値を高め生かす活動」が評価され、「グッドデザイン賞」を受賞した。



また、2025(令和7)年には庭園の象徴である三重塔が、東広島からの移築100周年を迎えることを記念して、「天空の三重塔(パゴダ)」の絶景を企画。三重塔ゆかりの人物で、平安時代の官僚・歌人であった小野篁が塔から街並みを見渡し、歌を詠んだともいわれている風景を再現している。

有形・無形資産の活用も進めている。2024(令和6)年に、チャペルの一つをスイートルームにご宿泊のお客さま専用のエグゼクティブラウンジ「ル・シエル」としてオープン。ライトミールやくつろぎのテラスを楽しめる場所として生まれ変わった。

また、これまで長年にわたって上質のホスピタリティを提供してきた経験を生かし、産後ケアサービスにも取り組んでいる。専用の客室、専任のスタッフ、24時間体制のベビーケア、ホテル特製の薬膳スープといった特別メニューのご提供など、安心して快適に過ごしていただける居住環境を提供。こうした、既存の資産を有効活用した高付加価値の施設・サービスを提供することでお客様のニーズに応えるとともに、「ホテル椿山荘東京」ブランドの価値の向上に努めている。



2024年に誕生したスイートルームゲスト専用エグゼクティブラウンジ「ル・シエル」

山縣3名園の一つである椿山荘庭園。枯山水などを用いる象徴主義的な日本庭園ではなく、芝を用いるなど、山縣有朋公は革新的な感覚を持っていたといわれています。今の時代に山縣公がこの地に住んでいたら故郷の山口県萩市の阿武川にかかる雲海をきっと出現させたのではないか、そんな想いから「自然」×「現代のテクノロジー」を用いた圧倒的な絶景を作り出しました。

ホテル椿山荘東京 副総支配人
眞田あゆみ

